

8. 性能

項目	「墜落制止用具の規格」
胴ベルト	15.0kN 以上
ストラップ 平ロープ 蛇腹 ショックアブソーバ フック	15.0kN 以上
フック外れ止め装置	1.0kN の力を加えたとき、隙間に Φ3mm のピンゲージが通らないこと。
環類	11.5kN 以上
バックル連結部	8.0kN 以上
環類取付け部	11.5kN 以上
ショックアブソーバの 衝撃吸収性	重さ100kgの重錘またはトルソーを自由落下距離で落下させた場合に衝撃値が4.0kN以下であること、またショックアブソーバの伸びが1.2m以下であること。

製品に関するお問い合わせは

✉ <https://jpn.tajimatool.co.jp/inquiry>



☎ 0120-125577

受付時間：
月曜日～金曜日 9:00～17:00
(12:00～13:00/祝日・当社指定休日を除く)

株式会社TJMデザイン

本社/〒174-8503 東京都板橋区小豆沢3-4-3
www.tajimatool.co.jp

保管用 第2版
55879

ご使用前に必ずお読みください。

Tajima

「墜落制止用具の規格」適合品

取扱説明書

胴ベルト型

このたびは、《墜落制止用具 胴ベルト型》をお買い上げいただきありがとうございます。

本製品は、2m以上の高所作業において、フルハーネス型の着用では地面に到着するおそれのある場合に用いる胴ベルト型の墜落制止用具です。

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよく読みいただき、内容をよくご理解の上、ご使用ください。⚠ 危険 ⚠ 警告 ⚠ 注意の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。この取扱説明書は、いつでも活用できるよう大切に保管してください。

取扱説明書を紛失された場合は、弊社HPにも掲載しておりますので、プリントアウトして保管してください。

HPアドレス：www.tajimatool.co.jp

(HPトップページにある「取扱説明書」のボタンをクリックしてください)

この墜落制止用具は胴ベルト型（1本つり）専用です。

●目次

	ページ	ページ
1. 用途	2～3	3-3 【バックルの使用方法】 8
2. 胴ベルト型ランヤードの構造、各部名称および使用方法	4	3-4 【胴ベルトに接続環(D環/A環)を付ける方法】 9
2-1 【胴ベルトへの取付け方法】	5	3-5 【胴ベルトにフックハンガーを付ける方法】 9
2-2 【ERタイプのストラップ長さの調整方法】	6	4. 必ずお守りください (使用上の注意事項) 10～15
2-3 【フックの操作方法】	6	5. 点検と廃棄の基準 16～18
2-4 【フックの使用法】	6	6. 保管と手入れのしかた 19
3. 胴ベルトの構造、各部名称および使用方法	7	7. 交換のめやす(耐用期間) 19
3-1 【胴ベルトを締める位置】	7	8. 性能 20
3-2 【バックルに胴ベルトを通す方法】	7～8	

1. 用 途

このランヤードは胴ベルト型（1本つり*1）専用です。
その使用例および用途は右記のとおりです。

*1 1本つり 図のようにランヤード先端のフックを構造物に掛けて、構造物から人体までがランヤード1本でつながっている状態をいいます。

種類：胴ベルト型 種別：第一種（4kN）

- 体重（装備重量含む）：100kg 以下
 - 最大自由落下距離：1.8m
 - 落下距離：3.1m
- で使用ください。

墜落制止用器具 株式会社TJMデザイン	
種別	種別
胴ベルト型	第一種（4kN）
1.8m	3.1m
最大自由落下距離	落下距離
フックに表示	
有	
BV100000001	
製造年月	
製造番号	

製品のラベルにも記載がありますので、上図緑枠内の表記を必ずご確認ください。

- 最大自由落下距離 このショックアブソーバの性能を確認している試験落下高さです。実使用上は、フックを掛ける高さによって距離が変動します。
- 落下距離 体重（装備重量）100kgの方が、高さ0.85mの親綱および単管にフックを掛けた状態で墜落した場合の落下距離です。
- 使用可能質量 体重と装着する全ての物の合計重量です。

▼安全にご使用いただくために必要となる作業所～床までの距離

	親綱および単管にフックを掛ける高さ							
	0m （足元）	～	0.85m	1.0m	1.15m	1.3m	1.45m	1.6m
自由落下距離			1.8m ラベル表記	1.65m	1.5m	1.35m	1.2m	1.05m
落下距離			3.1m ラベル表記	2.95m	2.8m	2.65m	2.5m	2.35m
必要となる距離			6.75m以上	3.1m以上	2.95m以上	2.8m以上	2.65m以上	2.5m以上

*現在のところ取扱いはございません。なお胴ベルト型はこの条件では使用できません。

● 体重（装備重量）* の制限について

体重は 100kg 以下でご利用ください。

体重が 100kg を超えると墜落時に大きな衝撃荷重が加わり、墜落制止用器具が破断して重大な事故が起こるおそれがありますので使用しないでください。

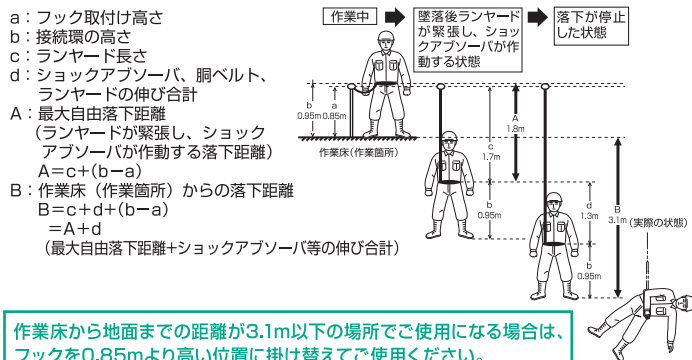
* 体重（装備重量）：体重と装着する全ての物の合計重量

● 使用高さの制限について

ロック装置なしランヤード

このランヤードは下の図の使用を想定しております。
接続環の高さ：0.95m フック取付け高さ：0.85m
この場合、
最大自由落下距離：1.8m、落下距離（作業床からの落下距離）：3.1m
となります。

なお、6.75m以上で作業する場合はフルハーネス型をご利用ください。
一般的な建築作業の場合、5m以上で作業する場合はフルハーネス型の使用が推奨されます。



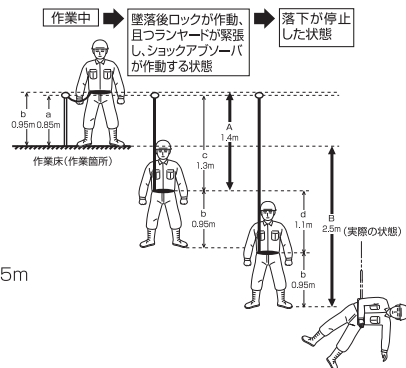
作業床から地面までの距離が3.1m以下の場所でご使用になる場合は、フックを0.85mより高い位置に掛け替えてご利用ください。

ロック装置あり巻取式ランヤード

ロック装置あり巻取式ランヤードは墜落時にロック装置が作動し、落下距離を最短に抑える機構を備えたランヤードです。標準的使用方法である下記条件で使用された場合の落下距離は下記となります。

標準的使用方法：

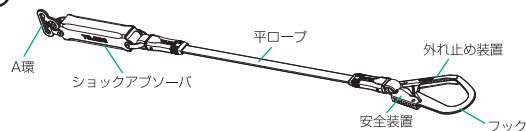
- ・接続環の高さ：0.95m
 - ・フック取付け高さ：0.85m
- 最大自由落下距離：1.4m
落下距離（作業床からの落下距離）：2.5m



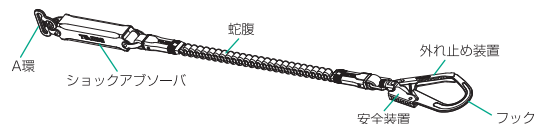
2. 胴ベルト型ランヤードの構造、各部名称および使用方法

●A環接続タイプ

【平ロープ】



【蛇腹】

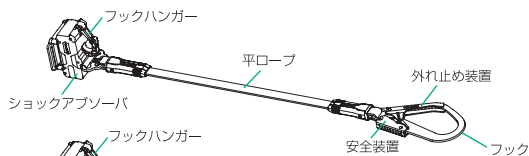


【巻取式(ロック装置なし) ERタイプ】

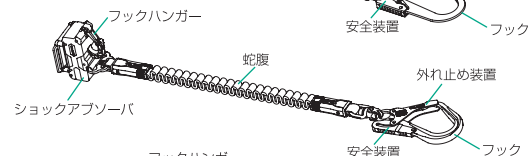


●縦型ショックアブソーバタイプ

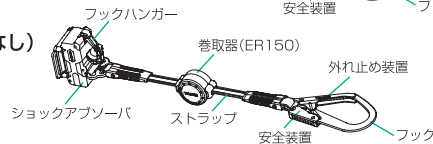
【平ロープ】



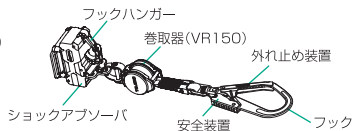
【蛇腹】



【巻取式(ロック装置なし) ERタイプ】



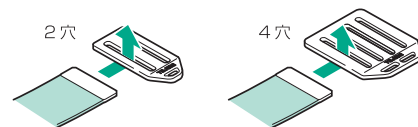
【巻取式(ロック装置あり) VRタイプ】



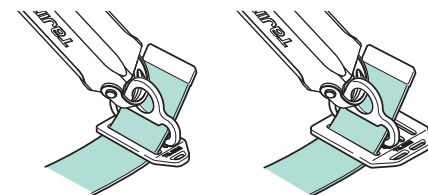
2-1【胴ベルトへの取付け方法】

●A環接続タイプ

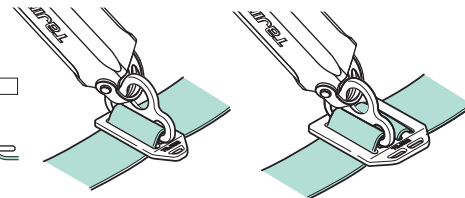
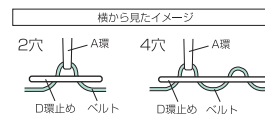
①ベルトをD環止めの最初の長穴に通します。



②ベルトにランヤードのA環を通します。

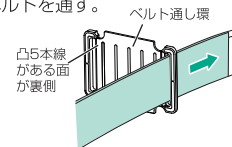


③D環止めの長穴にベルトを順次図のように通します。

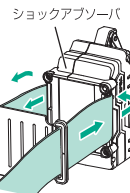


●縦型ショックアブソーバタイプ

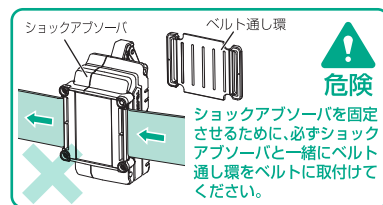
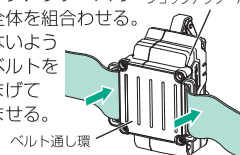
①ベルト通し環の裏側からベルトを通す。



②ベルトをショックアブソーバ側の穴から通し、再度ベルト通し環の表側から通す。この状態でベルトの取付位置までベルト通し環とショックアブソーバと一緒に移動する。



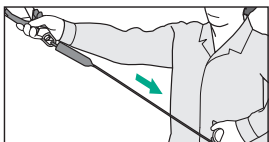
③位置が決まったら、ベルトを両側へ引っ張りながらベルト通し環とショックアブソーバの凹凸全体を組み合わせる。外れないように、ベルトを押しまげてなじませる。



危険

ショックアブソーバを固定させるために、必ずショックアブソーバと一緒にベルト通し環をベルトに取付けてください。

2-2 【ER タイプのストラップ長さの調整方法】



- ①ストラップを全て引出す。
- ②引出したい長さになるように巻取器本体を身体側にスライドさせ、ストラップを固定する。

2-3 【フックの操作方法】

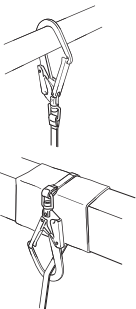
フックは外れ止め装置と安全装置を同時に握ってください。開口します。



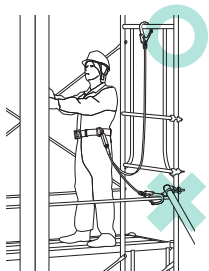
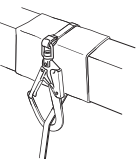
2-4 【フックの使用法】

フックは腰より高い位置の堅固な構造物などに直接掛けをするか、あるいはランヤードを利用して回し掛けをしてください。

直接掛け



回し掛け

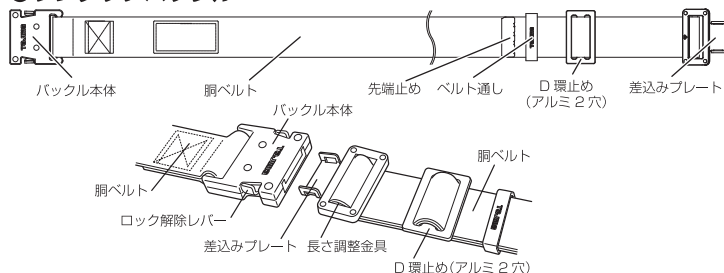


腰の高さより
高い位置

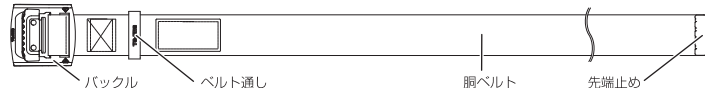
腰の高さより
低い位置

3. 胸ベルトの構造、各部名称および使用方法

●ワンタッチバックル

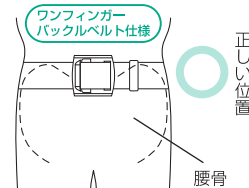
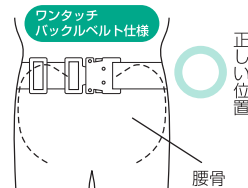


●ワンフィンガーバックル



3-1 【胸ベルトを締める位置】

胸ベルトは腰骨の
ところの正しい位置に
締めてください。
(右図参照)



3-2 【バックルに胸ベルトを通す方法】

ワンタッチバックルベルト仕様

1. 裏側の刻印(1)にベルト先端を通してください。
※ベルトの表 / 裏に注意してください。



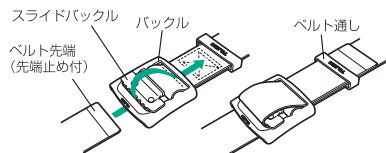
2. 次に表側の刻印(2)にベルト先端を通してください。



3. 胸ベルトが腰骨の上にとしっかりと締まる長さに調整してください。

ワンフィンガーバックルベルト仕様

スライドバックル部分を開き、バックルの裏側の刻印↑の所にベルト先端部を通し、次に表側の刻印↓に入れてください。余ったベルトはベルト通しに必ず通してください。

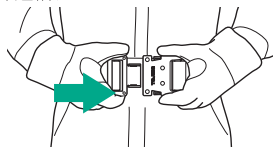


ベルトを外すときは、必ずスライドバックルを開いて外してください。閉じたままの状態を外すと、スライドバックル部分とベルトの先端止めが引っかかり、破損の原因となります。

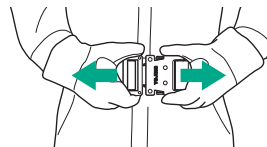
3-3 【バックルの使用方法】

ワンタッチバックルベルト仕様

1. 連結するとき

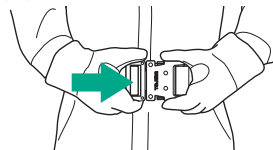


①片方の手でバックル本体を保持し、差込プレートを本体の奥に当たるまで差し込みます。

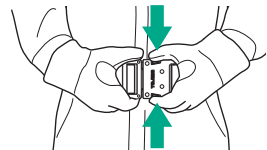


②両方のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認し、さらにベルトを左右に引き、バックルがロックされていることを確認してください。

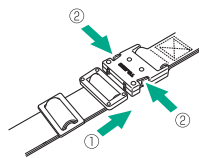
2. 外すとき



①差込みプレートをバックル本体側に押し込みます。

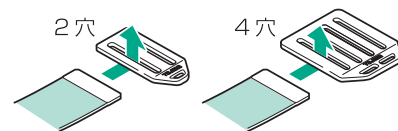


②同時にロック解除レバーを押さえると差込みプレートが外れます。

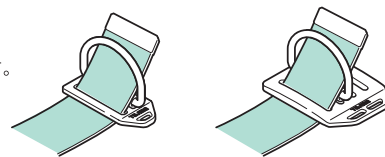


3-4 【胴ベルトに接続環 (D 環 / A 環) を取付ける方法】

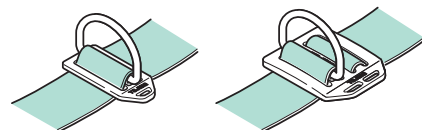
①ベルトをD環止めの最初の長穴に通します。



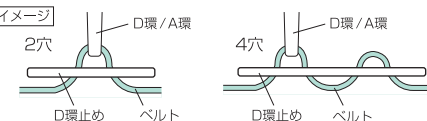
②ベルトにD環/A環を通します。



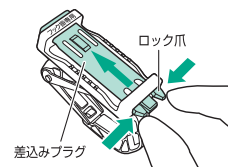
③D環止めの長穴にベルトを順次図のように通します。



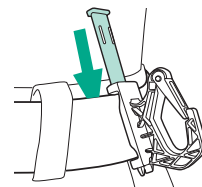
横から見たイメージ



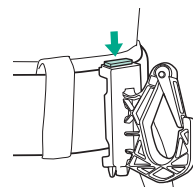
3-5 胴ベルトに後付フックハンガーを取付ける方法



①本体裏側のロック爪を図のように閉じながら、差込みプラグを上方に押し出す。



②取付けたい場所に差込みプラグをベルトの内側に差込む。



③差込みプラグを元の位置に最後まで差込み、ロック爪が抜けを確認する。

4. 必ずお守りください（使用上の注意事項）

！ 危険 誤った使い方をしますと、墜落などの危険性がありますので、絶対にやめてください。

●ランヤードは堅固な構造物に取付けてください。

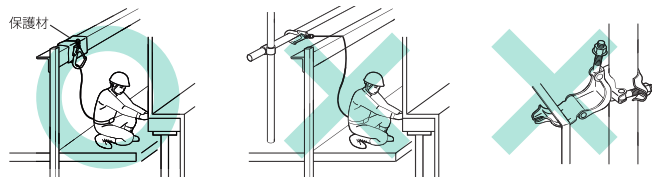
ランヤードは、構造物から抜けたり、破損したりするおそれがなく、墜落制止時の衝撃荷重に十分耐えるものを選んで取付けてください。

電灯線等弱い構造物に取付けると、墜落制止時の衝撃荷重で破損し、墜落する危険性があります。



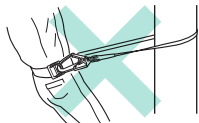
●ランヤードが鋭い角に触れないようにしてください。

ランヤードが墜落時に鋭い角に触れるおそれのある所では使用しないでください。



墜落制止時に鋭い角でランヤードが切断することがあり危険です。したがって、鋭い角のある構造物を避けてランヤードを掛けるか、または構造物に丈夫な布などの保護材を巻いてご使用ください。

●接続環（D環/A環/U字環）にフックを掛けストラップまたはロープに体重をかけた状態で絶対に使用しないでください。



●フックハンガーにランヤードを絶対に取付けしないでください。



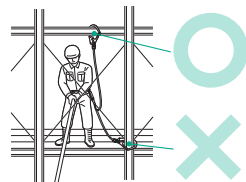
●改造や部品の取外し等の加工は絶対に行わないでください。

●組合わせて使用される製品の取扱説明書もあわせてご覧いただき、正しくお使いください。

●フックは腰の高さより高い位置に取付けてください。

フックは必ず腰の高さより高い位置に取付けてください。低い位置に取付けた場合、落下距離が長くなり床面または下方の障害物に接触する危険性があります。

また衝撃荷重が大きくなり身体に損傷を及ぼす恐れがあるばかりか、ランヤードが切断する危険性があります。絶対にしないでください。



●フックは正しく掛けてください。

誤った掛け方をすると、フック本体が変形または破断して墜落する危険性があります。フックは墜落制止時に折れ曲がったり、外れ止め装置および安全装置に荷重が加わらないようにフックの主軸の方向と、墜落制止時にかかる力の方向が一致するように掛けてご使用ください。

回し掛けは鋭角部を避け、フックに横方向の曲げ荷重が加わらないように、また縫製部保護カバーが屈曲しないように掛けてください。フックが正しく掛かっているか（外れ止め装置が閉じているか、安全装置が構造物との接触で押されていないか等）目視で確認し、あわせて引張って外れないか、確実に連結されているかご確認の上ご使用ください。

	直接掛け	回し掛け	穴掛け（ボルト穴など）
正しい掛け方			
誤った掛け方			

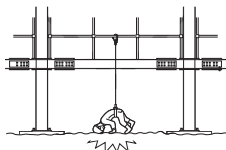


誤った掛け方をすると、外れ止め装置や安全装置がねじられたり部材が押されたりしてフックが取付け部から外れたり、フック本体が変形して墜落するおそれがあります。

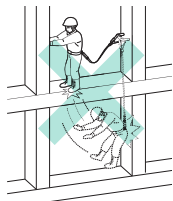
警告 誤った使い方をしますと、墜落などのおそれがありますので、やめてください。

● 墜落制止用器具は墜落災害の防止用ですので他の用途には使用しないでください。

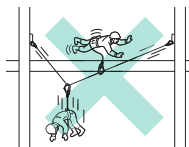
● ランヤードは墜落制止時に床面または下方の障害物に接触しない位置に取付けてください。



● ランヤードは振り子状態にならない位置に取付けてください。



● 親綱（垂直・水平）の1スパンを利用する作業者は1名としてください。



友引き状態になり、他の作業者も同時に墜落するおそれがあります。

● 一度でも大きな荷重が加わったものは廃棄してください。

下図のように金具が破損しているものは、大きな外力が加わった可能性があります。墜落制止用器具全体を廃棄してください。



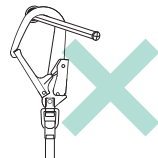
正常なD環の状態

一度墜落制止したD環の状態

外見上の変形がなくても、一度でも大きな荷重が加わったものは設定減衰力が低くなり、再び墜落すると衝撃荷重が人体へ大きく加わって、安全限界を超えて人体が損傷するおそれがあります。

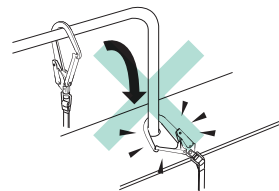
● フックをステップボルトに掛けしないでください。

墜落制止時にフックが曲がったり、抜けたり、ステップボルトが折損したり、重大事故になる危険性がありますので、絶対にしないでください。



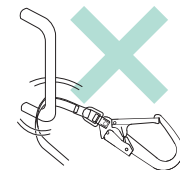
● フックが滑り落ちるような場所にフックを掛けしないでください。

支柱に滑り止めとなる横棒のない枠組み足場の手すりや斜めの構造物など、フックが取付け位置から滑る場所にはフックを掛けしないでください。



● 屈曲としどきが加わる使用はしないでください。

縫製部、縫製部際に過度の屈曲としどきが繰り返されると、縫製部を保護するカバーが破損し、縫製部の強度低下につながるため絶対にしないでください。



● フルハーネス型と組合わせしないでください。

本製品は、墜落制止用器具 胸ベルト型です。フルハーネスに組合わせて使用した場合、衝撃荷重が大きくなり身体に損傷を及ぼすおそれがあります。必ず墜落制止用器具 胸ベルトと組合わせてご使用ください。

● 溶接の火花、強い酸やアルカリ、油、その他高温高熱の物体や科学薬品類が製品に付かないようにしてください。

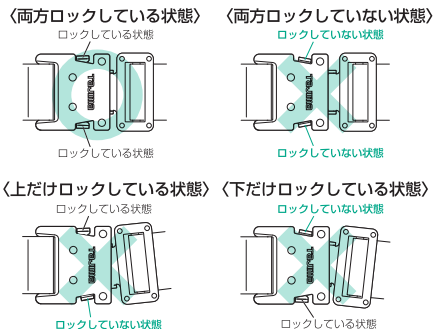
●  雨の日は感電に注意してください。

●差込みプレートが確実にロックしていることを確認してください。

ワンタッチバックルベルト仕様

差込みプレートは両方のロック解除レバーの位置が右図に示す状態になるまで（「カチッ」と音がするまで）差し込んでください。

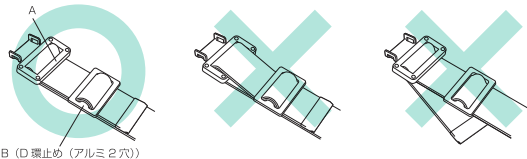
差込みプレートを確実にロックしていないと、墜落制止時に差込みプレートが本体から抜けて重大な事故になります。特に片方だけロックしている状態にならないようにご注意ください。



●胴ベルトを本体又は差込みプレートの長さ調整金具とベルト通しに正しく通してください。

ワンタッチバックルベルト仕様

胴ベルトを差込みプレートのAの部分とB（D環止め（アルミ2穴））に通し、先端部が外側になるように正しく通してください。

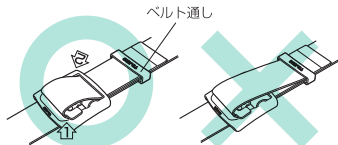


胴ベルトの通し方を間違えると、墜落制止時にベルトがバックルから滑り抜けて、事故のもとになります。

●胴ベルトをバックルに正しく通してください。

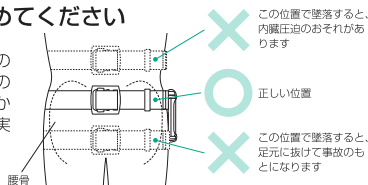
ワンフィンガーバックルベルト仕様

胴ベルトを矢印①から④の順に正しく通し、最後にベルト通しに通してください。通し方を誤ると、墜落制止時に胴ベルトがバックルより滑り抜けて事故のもとになります。



●胴ベルトは腰骨のところに締めてください

ベルトはできるだけ腰骨の近くで墜落制止時に足部の方へ抜けない位置で、しかも胸部へずれないように確実に装着してください。



●墜落制止用器具は-10℃～50℃の範囲で使ってください

ベルト・ランヤード・ショックアブソーバが火気または高温部に触れないようにしてください。なお、墜落制止用器具の使用温度が-10℃～50℃以内であっても、水に濡れて凍結すると、フックの外れ止め装置と安全装置、バックルのスライド部、巻取器のロック装置が作動しないおそれがあります。操作する上で異常がないか確認しながらお使いください。

⚠️注意 安全にお使いいただくためにお守りください。

●墜落制止用器具に体重を掛けて作業をしないでください。

万一の墜落制止を目的に使用する墜落制止用器具です。

●丁寧に扱ってください。

ランヤードを引きずりますとフックに砂などの異物が付着したり、ランヤードが摩耗したりします。使用しない時、ストラップ巻取式タイプについてはストラップを巻取器に収納してください。

●巻取器には急移動でロックがかかる製品がありますので注意してください。

●胴ベルト型ランヤード、胴当てベルト、胴ベルトを組合わせてご使用になる場合は、当社製品を組合わせてください。

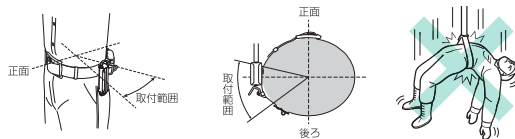
●墜落制止時に身体に傷をつける場合がありますので、工具類は腰袋へ入れてください。

●墜落制止用器具は屋外に放置しないでください。

ベルト・ランヤードは合成繊維製のため紫外線によっても強度が低下します。

●接続環は、横かななめ後ろになるように装着してください。

身体の横か、かなめ後ろに位置するように使用してください。



接続環を前にとると墜落制止時に背骨に負担がかかり、人体が損傷する場合があります。

5. 点検と廃棄の基準

●一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず、廃棄してください。

墜落制止用器具および関連器具は消耗品であり、使用しているうちに摩耗などにより性能が低下します。従って点検において1項目でも廃棄基準に達しているものは、機能不良や強度不足になりますので新品と取替えてください。

始業点検：使用する人が作業前（装着時）に毎回行ってください。
点検後地上で墜落制止用器具を装着し、異常のないことを確認してください。

定期点検：使用する人もしくは管理者により1カ月ごとに行ってください。

異常時点検：作業中墜落制止用器具に異常を感じたら直ちに作業を中止し、再点検を行ってください。

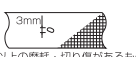
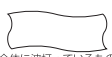
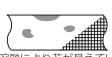
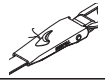
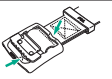
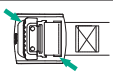
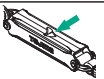
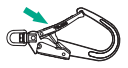
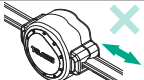
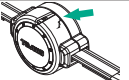
●墜落制止用器具点検チェックリスト 日常の点検を励行してください。

廃棄基準に達しているものは新品と取替えてください。				○:異常なし X:異常あり	
（このチェックリストをコピーして点検時にご使用ください）				年	月 日
点検項目				廃棄基準	
胴ベルト	両耳	摩耗・擦り切れ	3mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの		判定
		切り傷	3mm以上の切り傷のあるもの		
		焼損・溶融	3mm以上の焼損・溶融しているもの		
		縫製部			
	幅の中	摩耗・擦り切れ	3mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの		
		切り傷	3mm以上の切り傷のあるもの		
		焼損・溶融	3mm以上の焼損・溶融しているもの		
		縫製部			
	全体	薬品・塗料	3mm以上付着しているもの		
		切り傷	3mm以上の切り傷のあるもの		
		焼損・溶融	3mm以上の焼損・溶融しているもの		
		先端止めの変形	バックルに通らなくなったもの		
		先端止めの脱落	先端止めが脱落してベルトがほつれているもの		
	バックル	縫糸	1ヵ所以上切断しているもの		
		変形	締め具合が悪いもの リベットのカジメ部にガタ・変形があるもの		
		摩滅・傷	深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの リベットのカジメ部が2分の1以上摩滅しているもの ベルトの噛合部が摩滅しているもの (正しく装着し、腹部に力を入れてベルトがゆるむもの)		
		錆	全体に錆が発生しているもの		
ヘルメット	フック	ばね	折損、脱落しているもの		
		変形	外れ止め装置の開閉操作の悪いもの リベットのカジメ部にガタつきがあるもの		

ヘルメット	フック	摩滅・傷	深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの リベットのカジメ部が2分の1以上摩滅しているもの	
		錆	全体に錆が発生しているもの	
		ばね	折損、脱落しているもの	
		より戻し	より戻しの回転部に0.8mm以上の隙間があるもの	
	巻取器	変形	ストラップの巻き込み、引出しができないもの	
		取付ねじ	巻取器の取付ねじが脱落しているもの	
		破損・傷	ベルト通し環が破損しているもの	
		ロック装置	巻取器のロック機能が動かなくなったもの	
		樹脂カバー(ケース)	樹脂カバー(ケース)が破損しているもの	
		リベット	リベット頭部が1/2以上摩滅しているもの リベットのカジメ部にガタ・変形があるもの	
		錆	金属部に錆が発生しているもの	
	ストラップ 平ロープ	摩耗・擦り切れ	芯の露出、また1mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの 使用開始から2年が経過しているもの	
		切り傷	芯の露出、また1mm以上の切り傷のあるもの	
		焼損・溶融	芯の露出、また1mm以上の焼損・溶融しているもの	
		薬品・塗料	汚れ・変色・硬化しているもの	
		縫製部保護カバー	縫製部保護カバーが破損または脱落しているもの	
		縫糸	摩耗・擦り切れ・切断しているもの	
	蛇腹	摩耗・擦り切れ	芯の露出、また1mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの 使用開始から2年が経過しているもの	
		切り傷	芯の露出、また1mm以上の切り傷のあるもの	
		焼損・溶融	芯の露出、また1mm以上の焼損・溶融しているもの	
		薬品・塗料	汚れ・変色・硬化しているもの	
		収縮性	泥・錆・塵などの汚れにより、柔軟性または収縮性が失われたもの	
		縫製部保護カバー	縫製部保護カバーが破損または脱落しているもの	
ショック アブソーバ	縫糸	縫糸	摩耗・擦り切れ・切断しているもの	
		薬品・塗料	薬品が付着したもの 薬品により変色・溶融箇所があるもの 塗料が著しく付着して、硬化したもの	
		切り傷	カバーが破れてショックアブソーバが露出しているもの (テープなどを巻き付けられないでください)	
		擦り切れ	両端の環部のベルトが著しく擦り切れているもの	
	衝撃荷重	衝撃荷重	大きな衝撃荷重を受け作動したもの	
		変形	目視で確認できる変形のあるもの	
環類	摩滅・傷	摩滅・傷	深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
		錆	全体に錆が発生しているもの	

1項目でも廃棄基準に達しているものは使用しないでください。

墜落制止用器具の廃棄基準の一例

ベルト	摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融		摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融	
	両耳		幅の中	
ストラップ・平ロープ・蛇腹		3mm以上の摩耗・切り傷があるもの		3mm以上の摩耗・切り傷があるもの
	切り傷		摩耗	
		1mm以上の摩耗・切り傷があるもの		芯が見えているもの
	形崩れ		薬品・塗料	
		全体に波打っているもの		塗料が付着して硬化しているもの、また薬品が付着し、変色しているもの
バックル	損傷・溶融		縫糸	
		損傷・溶融により芯が見えているもの		縫糸が1ヶ所以上切断しているもの
バックル	変形		摩滅・傷	
		変形し、締め具合の悪いもの		1mm以上の摩滅、傷があるもの
環類	変形		摩滅・傷	
		目視で変形が確認できるもの		1mm以上の摩滅、傷があるもの
ショックアブソーバー	破れ			
		カバーが破れてショックアブソーバーが露出しているもの		
フック	変形		摩滅・傷	
		外れ止め装置の開閉操作の悪いもの、フックが曲がったもの		1mm以上の摩滅、傷があるもの
巻取器	変形		破損・傷	
		ストラップの巻き込み、引出しができないもの		本体が破損しているもの

6. 保管と手入れのしかた

●墜落制止用器具は次のような場所で保管してください。

- ①直射日光に当たらない所。
- ②風通しがよく、湿気のない所。
- ③火気・放熱体などが近くにない所。
- ④腐食性物質を置いていない所。
- ⑤塵埃の少ない所。
- ⑥子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないような場所。

●物品の下積みなどにより傷や変形が起こらないようにしてください。

●ベルト・ランヤードに泥・埃・油・塗料が付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってください。

●フック・バックルなどの金具は付着した砂・土・水などを拭き取り、可動部に時々注油してください。

7. 交換のめやす（耐用期間）

使いかたによって異なりますが、交換のめやすとしては、ランヤード部は使用開始年月より2年、ベルト部は3年くらいをめどとしてください。ただし、耐用期間内であっても「5.点検と廃棄の基準」にしたがって点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで、新品と取替えてください。

●使用を開始した年月をバックル取付部に縫い付けてあるラベルに必ず記入してください（右図参照）。

●ランヤード部などを取替えた時は、その年月をラベルに記入してください。

